

Book Review



「下川の臨床咬合」受講ノート 安全な咬合・危ない咬合

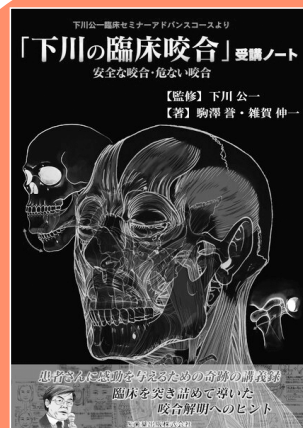
下川公一 監修／駒澤 誉・雑賀伸一 著

● ● ●

Reviewer

木村英生 Hideo Kimura
(福岡県・木村歯科医院)

A4判, 152頁
オールカラー
定価(本体7,200円+税)
医歯薬出版刊



下川公一先生は昭和46年(1971年),ご自身が29歳のときに,中道正道名誉会長をはじめとする総勢7名のメンバーで「北九州歯学研究会」を創立された。そして若い頃から「臨床歯科を語る会」などの全国的な勉強会に積極的に参加され,ときには先輩歯科医師にも臆することなく歯に衣着せぬ厳しい物言いで意見をされ,「誰がなんと言おうと正しいことは正しい,間違っていることは間違っている」という一貫した姿勢を崩さず歯科界を牽引してこられた。

先生は既存の歯科医学の常識や歯科界の権威者の言葉を決して鵜呑みにすることなく,徹底的な基礎歯科医学の研鑽とそれを踏まえうえでの臨床実践,そして臨床経験の蓄積をもとにいわゆる「下川式臨床論」を完成された。さらに,長期経過観察によりその真偽を確認し,試行錯誤,取捨選択を経て辿り着いた完全オリジナルの理論である。これにはエンド,ペリオ,咬合,補綴などといった日常臨床に必要とされるすべての分野が包含されているばかりでなく,患者との関わり方や理想

的な医院システムのあり方,治療上の要点,注意点,盲点などが細大漏らさず網羅されている。

さて,このたび『「下川の臨床咬合」受講ノート 安全な咬合・危ない咬合』が,下川公一臨床セミナー受講生である雑賀伸一先生と駒澤 誉先生の共著で上梓された。下川公一先生が歯科医師人生を賭して築きあげたオリジナル咬合論の解説書である。本書は,「咬合」に問題を抱えるさまざまな病態に対して「安全な咬合」と「危ない咬合」とを鑑別し,「危ない咬合」をより安全な方向に導くためのきわめて具体的な指南書でもある。

下川公一臨床セミナーは毎月1回土曜日午前中の臨床見学と午後の実習(患者実習,模型実習,相互実習等),日曜日の講義と受講生の宿題発表という形で成り立っていたが,本書はそのすべての内容のエッセンスを網羅しており,正確かつ美しいビジュアルを多用して極めてわかりやすくまとめたものである。本書を読んでいただければ,より短時間で確実に下川式咬合論の要点を理解していただけるはずであ

る。多くの先生方に講義さながらの臨場感を体験していただきたい。

本書は,雑賀伸一先生の並外れた観察力と文章力に加え,駒澤 誉先生の的確な射た正確かつ迫力あるイラストとが相まって,これまでにない具体的な理解しやすい咬合理論の解説書となっている。いま咬合治療に困っている方ばかりでなく,より簡単でより効率的,効果的な臨床を目指すすべての先生方にお勧めしたい。

例えば,下川先生は多くの「顔」をお持ちであった。診療中の超一流歯科医師の顔,塾生を指導する厳しい顔,落ち込んだ塾生をフォローする優しい顔,講演会場でのカリスマ講師としての顔,親しい友人と一緒に楽しい時間を過ごすときの少年のような笑顔,禁止されている甘いものを食べるときの至福の顔,お孫さんを見るときのデレデレのおじいちゃまの顔,等々これほど喜怒哀楽をストレートに私たちにを見せてくださる下川先生を敬愛しない門弟はいない。ぜひ,その一端に触れてみていただきたい。